

小規模多機能型居宅介護まこと

グループホームまこと

運営推進会議 議事録

令和6年3月21日(木)

14時～15時

小規模多機能型居宅介護まこと2階

司会 柴田砂奈江(小規模多機能型居宅介護まこと管理者)

鹿野英一(GHまこと管理者)

宮本 (小規模多機能型居宅介護まこと介護リーダー)

書記 工藤 未紗喜(GHまこと管理者)

参加者

- ・鈴木 裕子様(小規模多機能型居宅介護まこと)
- ・五ノ井 八重様(小規模多機能型居宅介護)
- ・矢内 千香子様(グループホームまこと)
- ・本間 悟様(グループホームまこと)
- ・末永 浩之様(東部北地域包括支援センター)

1 挨拶

初めての方もいらっしゃるので運営推進会議とはということで、運営推進介護とは、地域密着型サービス事業所に設置・開催が義務付けられ、利用者、利用者家族、地域住民の代表者、市町村職員または地域包括支援センター職員等などで構成され、事業所ごとに自ら設置するものです。この会議において、事業所が行っているサービス内容等を報告し、地域に開かれたサービスをすることで、事業運営の透明性の確保やサービスの質の向上、地域との連携及び交流の確保等を努めることを目的としています。

2 事業運営報告

- ・1月・2月のサービス利用状況 (小規模・グループホーム)
- ・まことでのサービス内容、行事等 (小規模・グループホーム)
- ・利用者ご家族様からの声
- ・1月・2月の事故報告について
- ・地域包括支援センターからの声
- ・質疑応答(小規模多機能まことより)

3 質疑応答（意見交流）

- ・小規模多機能型居宅介護まことより

4 その他

- ・小規模多機能、グループホームより
- ・町内会活動、地域交流への参加について
- ・今後の活動等

(2) 事業運営報告

■ 1～2月の介護度別サービス利用状況

(1月31日・2月29日付)

要介護	1月 小規模	2月 小規模	1月 グループホーム	2月 グループホーム
要支援1	1名	1名		
要支援2	2名	1名	0名	0名
要介護1	10名	12名	2名	2名
要介護2	9名	9名	5名	5名
要介護3	2名	1名	6名	6名
要介護4	2名	2名	4名	4名
要介護5	0名	0名	0名	0名
計	26名	26名	17名	17名

柴田「小規模多機能型居宅介護まことの1月、2月の事業運営報告をさせていただきます。定員は29名で、1月は26名、2月も26名で推移しています。途中、要介護度変更、利用者様の入れ替わりはありましたが、合計数は26名おります。内訳はご参照ください。」

鹿野「グループホームまことです。1月2月とも変わっておりません。18名のところ、17名で対応しています。3月2日で1名入居となりまして、18名となっております」

■ 小規模まことでのサービス内容・行事等

- ・ 1月 3日(水) 初詣 ～釧路町 八幡神社～
- ・ 1月 4日(木) 初詣 ～釧路町 八幡神社～
- ・ 1月 18日(木) おやつ作り ～お汁粉作り～
- ・ 1月 20日(土) 昼食作り ～海鮮モダン焼・スープ～
- ・ 2月 3日(土) 節分 ～海鮮恵方巻・豆まき～
- ・ 2月 4日(日) 訪問美容
- ・ 2月 10日(水) ドライブ ～釧路 街並み探訪～
- ・ 2月 14日(水) おやつ作り ～蒸しパン～
- ・ 2月 21日(水) 昼食作り ～ホットサンド・春雨スープ～

柴田「1月に入りまして、初詣に釧路町の八幡神社へ2回に分けて参拝をしております。その他にも事業所の中でも、昼食作り、おやつ作り。そのほか2月に入りまして、節分で恵方巻、豆まきをして、ドライブで等々で野外活動も冬季期間ではありますが、積極的に行っております。定期的に月に2～3回昼食レクにて利用者さんの皆さんで自分たちの好きな物を作って頂くという形で開催をしています。」

グループホームまことでのサービス内容・行事など

- ・ 1月 2日(火) カルタ大会
- ・ 1月 3日(水) 書き初め
- ・ 1月 5日(金) 初詣 八幡神社 すごろく
- ・ 1月 8日(月) 福笑い
- ・ 1月 10日(水) ホットケーキ作り
- ・ 1月 15日(月) ホットケーキ作り
- ・ 2月 3日(土) 節分 豆まき 恵方巻
- ・ 2月 14日(水) 火災避難訓練
- ・ 2月 18日(日) 2F 装飾お花作り
- ・ 2月 23日(金) 1F 中華饅頭作り 2F クレープ作り
- ・ 2月 24日(土) 1F 装飾作り

鹿野「1月2日、3日にカルタと書初めを行っております。1月5日に初詣で八幡さんへ行かせて頂きました。1月10日、15日にホットケーキ作りをしたのですが、1F、2F別々で作っております。2月3日は節分、2月14日に火災避難訓練を行っております。1年に2回義務付けられています。その1回目をやりました。装飾作り、おやつ作り等を行っております。その他、カラオケは週に1回を1、2F別々に行っております。」

■ 利用者ご家族からの声

小規模

- * 祖母が入所しています。成年後見制度を利用すると、親戚である私達にどのような責任が生じるのかと成年後見制度のメリットとデメリットを確認したい。

(T様 ご家族より)

柴田「小規模まことは今回 2 件、ご家族様からの意見を挙げさせてもらっています。この方、釧路市の権利擁護成年後見センターという所と連携して、後継の方を進めています。この方に関して、未婚でいらっしゃるって、お子さんもいらっしゃるって、そのあと墓守をしていらっしゃるけど継ぐ人が誰もいない。その方に墓じまいを行う予定ではあったんですけど、甥っ子さんが静岡県にいらっしゃるんですけど、遠方であるというところと、実害の甥っ子さんの母、妹さんもご高齢であることもあり、支援が難しいということでご相談がありました。8月に内地の方からこちらにお見えになり、通帳や印鑑などを事業所の方に送ってこられ、かなりの資産があったんです。そこで初めて私たちも内容を把握しました。基本的にまことでは預り金制度を設けていないんですけど、いきなり何千万というお金を私たちに預けられてしまったところです。ご本人自体も認知症の方も進行しておりまして、ご本人に金銭の管理は難しいということで後見センターにご相談させて頂きました。医師の判断で本人の仕立てが可能である判断がおりたので、基本的には本人が希望して申し立てを行うのであれば、親族の方にといいはないんですけど、一応念のために親族のご意見ということでご紹介をさせて頂いたときに、こちらのご意見を頂きました。基本的にメリット、デメリットという考え方ではないという事を後見センターの職員の方から直接、甥っ子さんに説明して頂きました。ただこの方、不動産などの資産を持っていて、甥っ子さんは相続で自分たちで手続きをするのは大変だから売り飛ばして下さいことをまことさんと不動産の売買手続きを行ってくださいと無理難題な話を受けたこともあって、それを含めて後見センターさんの方にご相談させて頂きました。ゆくゆくはご本人が亡くなった後には相続の手続き等が必ず必要になってはくるんですけど、ご本人名義の資産でご本人はまだ売却をする意思がないことという事を、ご親戚の方にお伝えしたら、そのあとから連絡が取れなくなってしまっ。今は書面でのやり取りを交わさせて頂いています。成年後見制度については補佐人の審判が一昨日ありまして、これから金銭管理、資産管理を移行していく形なっています。」

* 突然連絡が来て、心停止なんて驚きました。

(U様 補助人より)

柴田「この方9月1日に鶴居の養成邑さんの方からお引き受けした利用者様でした。そのまでは在宅独居でなかなか70前の男性で食生活もかなり乱れていて、糖尿であったりなど既往歴がかなりあるような方でした。精神状態も若干入っていたので、次の施設を探す間、生活馴らす為に養成邑さんの方で入院されていました。ご縁がありまして、9月から2Fのアシストの方に入居して頂きました。糖尿の既往歴があったんですけど、ご本人自体食べる事が好きで、体自体も大きくて、動く事も億劫とされる男性の方でした。それまでも入浴とか病院にいた時もほとんどされていなかったみたいでした。補助人の方は入浴も出来なかったら大変だなと相談を受けていましたが、すぐにまことに馴染んでくださって、1週間に2回の入浴は定期的に行われていました。この方、なかなか動く事も少なく、腸の動きも悪くなってきて、自力での排便がなかなか来ない方で、定期的に自らの訴えで事業所の看護師に依頼し、浣腸をかけて外圧的に排便を促す経緯がありました。定期的にコンスタントに行っていたんですけど、ある日、お腹が苦しいということで、床に膝をつくような形で「痛い痛い」ということで、念のために内科に主治医の所へ受診しました。受診したんですけど、特に何も対応がなく、点滴をし「大変だったら土日挟んで月曜日でも入院するかい？」と言われ、一旦、夜の18時半に事業所の方に戻されたんですけど、その後、2Fのお部屋で暮らされていたんですけど、私たちも心配だったので、1Fへ部屋移動をかけて、定期的に職員が様子を見に行けるような状態にしている、その時にたまたまポカリスエットを提供しようかなということで、訪室した際にご本人の口から泡を吹いているような状態で、呼吸はされていない。そこで職員は救急搬送の為に連絡をし、心臓マッサージを行い、救急搬送を行いました。その時に補助人さんからのコメントがこうだったんですね。昼間に病院受診してはいたが戻って1時間以内で心停止されて、夜間搬送かけて、そのまま手立て難しく、夜10時前にお亡くなりになってしまったということがございました。結局は脱水と脳のしわがなくなるほど腫れあがっていて、もう蘇生できる状態ではなく、そのままということでした。土日過ぎて入院予定の病院にご連絡をさしあげて、本日入院予定だったんですけど、前回受診後戻ってきて、1時間後には心停止をして、その後亡くなりましたということについては、日中した受診した医療機関にはお伝えをしました。補助人の方も大体どのような生活をされていて、病状があつてというところではご理解をされていて、常に病院受診をされている内容も報告もしているので、特に補助人さんからは疑いなどはありませんでした。対応の速さだけは感謝されました。この方の親族でいらっしゃるお兄さんにあたる方です。このお兄さん自体も弟さんの生活ぶりをよくご存じで、「俺は面倒は見やらないからな」と縁切りされている状況だったそうです。まことに入ってきて5ヵ月ぐらしかご縁がなかったので、お兄さんと直接連絡を取り合うことはなかったんですけど、お兄さんの方も「いつかは

そうなると思っていた」と言っていたということを補助人さんから伺いました。1月、2月このような出来事がありました。ご家族様の声に返させていただきます。」

鹿野「何かご質問などはありますか？」

柴田「話が重かったですよね」

末永様「突然連絡が来て、心停止なんて驚きましたってクレームなんですか？」

柴田「便が出なくて受診するよということはご報告させてもらっていて、ご帰宅されて、ご帰宅されたのが18時半で、ちゃんとした内容は看護師からの方が良いだろうということで、その日の受診が終わった後には連絡していなかったんです。」

末永様「急になくなって、ビックリしたという話なんですね」

柴田「そうですね。この方、生活保護の方で市役所の方には常にご相談させてもらっていたので。特に補助人さんやご家族さんの方からクレームのという形の話はお受けしておりません。」

グループホーム

* 特にありません

■ 1月・2月の事故報告について

	小規模 1月	小規模 2月	G H 1月	G H 2月
アクシデント	0件	0件	0件	0件
インシデント	7件	3件	6件	2件
ヒヤリハット	3件	0件	3件	2件

柴田「小規模まことの1月インシデント7件、ヒヤリハット3件発生しております。

2月に関してインシデント3件、ヒヤリハット0件ということで、一応、前回1月の運営推進会議の時に包括さんからご指摘があつて、事故報告のインシデントの件数が挙がっていて、ヒヤリハットの件数が少なかったんです。一応、事業所の考え方として潜在的なヒヤリハットがもっとあるはずなのになかなか報告書として挙がってこないことが問題であることを1月の推進会議の時にご相談をさせてもらって、その後のケア会議で事故について考え方をもう一回全職員で共有認識し、報告書の出し方について考え直して取り組んでいきました。それに伴って、1月2月発声しているんですけど、インシデント7件の中には、ふれあい日誌というものがあるんですけど、日誌の返し忘れもインシデントの中に入れております。今回、人為的の間違いが多くて、1月の返却忘れ、職員自体が送迎で行ったときに事業所携帯を持ち忘れ行ったということも事故扱いとなっています。あと、食前薬の服薬時間のズレという事故もインシデントの中に入ってきました。その他、1月のインシデントの中にはバスタオルの返し忘れもインシデントの中に入ってきております。2月に関して3件発生しております、1Fの玄関を歩いてきてご

存じだと思いますけど、内側のガラスがあるんですけど、利用者さんは開いていると思いでそのまま激突していったというのがインシデント1件として発生しております。その他には2Fの利用者様が夜間にトイレへ行くときに足を滑らせて転んだという事がありました。これは夜の8時に発生をしました。骨折等々は至っておりませんが、注意喚起ということでインシデントとなっております。その他、入浴前の着脱行為にズボンを脱いだ時よろけてしまったということが2月の事故報告をさせて頂いております。1月2月に関しては重大事故は発生しておらず、どこかに頭をぶつけしまうなどの転倒なども発生しておりません。」

鹿野「1月のインシデントが6件、ヒヤリハット3件。2月がインシデント2件、ヒヤリハットが2件となっております。内容は主に転倒に近いもので、車椅子の方か見守りの方が低床ベッドからずり落ちていたり、椅子からずり落ちていることがあり、インシデントとなっております。2月に関しても同じような感じです。ヒヤリハット3件も見守りの方が立ち上がったという件数が多かったと思います。」

■ 地域包括支援センター様からの声
末永様「特にございませぬ。」

4 質疑応答 または 意見交流

・小規模多機能型居宅介護まことより

柴田「小規模多機能まことの利用者様、ご家族様の方に向けて外部評価のアンケート等々を行いました。何分小多機の管理者になって初めての自己評価に入ったので、私は流れがいまいちつかめなくて、ちょっと近々になってしまったことで皆様にご迷惑をおかけしたかなと思っております。その中で短い日数にも関わらずアンケートをご返却ありがとうございました。資料を用意しましたのでご参照ください。アンケート、ご意見書を皆様から頂戴をしまして、その中についてご報告させて頂きます。アンケートの回答数は16ということで、項目を足しても総数になっていないところは未回答となっております。(別紙資料参照)全職員を対象にしている為、送迎職員、用務員職員、調理場の職員も含めて21名で自己評価を行った為、わからないという評価が多くなっていることが多くなっていると確認しました。前々回、前回の自己評価をする職員は介護職員が対象になっていたが、用務員などの職員も対象になった為、私では確認が取れなくて、今回は事業所全職員を対象に行いました。令和6年5月8日から感染症の部類が第2類から第5類へ移行になり、市内の中でもまことグループがいち早く面会制限解除と利用者様の外泊、外出等をいち早く開始しました。極力、利用者様を引き込めておくという思いはなく、入所の方のご家族様には出来るだけ来て頂いて、面会の回数は増やして頂きたいという目的もあって、お断りはせず、他の事業所では2名までなど制限はあったんですけど、現時点ではまことは人数制限などを行っておりません。意見書について家族側からしたら何を書いているのか困るわというのが本当

の所かなと。数年は電話連絡を頂いて、どうやって書くのという形でご質問を頂いた方もいらっしゃる。ただ、一番最後の『その他、ご意見があればご記入ください』というところは数名の方は記入して頂けたかなということでご紹介させていただきます。

- * いつも大変お世話になりありがとうございます。忙しい中大変お疲れ様です。運営推進会議に参加できず、全てお任せするようで大変申し訳なく思っております。

柴田「謝罪するようなご意見を頂きました。なかなかこの3ヶ月が終わらない事が問題だと思ひまして、以前、時間帯の変更を実施していましたが。なかなかお父様お母様、70代、80代、90代でいらっしゃる、お子様たちはまだ就労されている方たちでなかなか平日の14時を頂戴することが難しいというご意見がありまして、時間帯をずらして19時からというのを1度取り組みましたが、19時になってもご家族様の参加はちょっと増えたんですけど、行政の方にこの時間帯来て頂くということ自体難しくなっていて。結局、この時間帯に戻してしまっ。他検討したのが、曜日を水曜日ではなくて日曜日にしようかとなったんですけど、これも行政の方にご迷惑をかけてしまうということで、何処の時間帯で、今貝塚の私たちが支えているご家族様に対して、一番いいのか、何年か試行錯誤してきました。もう皆さん、第3水曜日認識して頂いているのであれば、もう一回ここで固定しようということでこの時間帯に設定をしています。

- * いつもお世話になっております。アットホームな感じで身近に誰かを感じる事ができ、祖母も安心している様子です。いつも職員皆様に優しくして頂き、いろいろ気にかけて部屋を訪問して頂いて、皆でイベントの時は楽しみにしている感じで活気ついてきた感じでした。本当にありがとうございます。今後とも宜しくお願いします。

柴田「ご感想を頂きました。ここからはご意見になります。」

- * 毎月、お便り、サービス計画書が届けられ、施設全体の様子やどのような支援をして下さるのがわかるが、日々の本人の様子がよく見えない。一言で良いので本人の様子を書き添えてもらいたい。

柴田「これはごもっともだと思ひながら拝見させて頂きました。請求書の中には毎月まこと通信という事業所通信として発行されて、それ自体郵送で入っていますが、個別のどのような状態だったかというのは小多機まことでは行っていません。以前、グループホーム勤務だったのですが、全利用者様前家族に写真付き職員コメントを入れて、ひと月この方のご様子っていうのをご家族様には発行して送っていたので、なのでなんとなく電話連絡、病状変化以外にもどのようにして事業所の中でお母さん、お父さんが過ごされているのかっているのが写真付きだったのでわかりやすかったかなと。グループホームではそのようなサービス内容を一環として行っていたが、小多機まことの方ではその流れはなく、改善

していかないとと思っています。通所で来られる方はご自宅で一緒に暮らされているので大きな問題にはならないんですけど、入所や長期のロングステイが入っていらっしゃる方のご家族様は面会に来て頂かない限りなかなかお会いすることも叶わず。日常生活の様子を電話連絡というよりは、何かあったときに電話連絡をするという形になっているので、ここに関して改善をしていきたいなと思っています。貴重なご意見をありがとうございました。」

- * 運営推進会議についてですが、母はお世話になってからコロナですっと開催されたことがなく、やっと開催の案内が届いて2回出席をしました。大勢の方が参加されているのと思い、出かけましたが2回ともほとんどいっしょらなくて驚きました。ご家族の方も職員の方もお忙しいのかもしれませんが、もう少し何とかならないものでしょうか。昔は地域の方々にもお声がけをいらしたようで、地域との関係性の構築は素晴らしいことだと思います。

柴田「なかなか貝塚地区の弱点だと思っているんですけど、地域のとの連携というのがちょっと難しく、なかなか上手く連携が取れていないというのが現実的にあります。ここについては改善をしていかなければと思っています。どういう手立てで地域に入っていけばいいのか、私自身も苦手意識もあって、なかなか改善案が出てこないんです。何かご意見ありますか？」

鈴木様「ちょっといいですか？去年、何の用事だったか忘れたんですけど、参加できなくて。なんかお祭りみたいなときに地域の方もいっしょっているんですか？」

柴田「一般発売もしているんで、地域の方も」

鈴木様「だから交流も兼ねているんだなって思っていたんですけど」

柴田「以前、コロナになるまでは貝塚町内会の盆踊り時は櫓建てなどを手伝っていたりはしていたんですけど、このコロナ明けてからはまったくなくなってしまって、どこをとっかかりにしたらいいのか。以前貝塚町内会の会長さんの所に事業所通信を回覧板に挟んでいただけませんかというのを相談したら、一事業所の利益に関わることなのでできませんとお断りされてから、関係性がちょっとズレてきちゃって、現実的な経過なんですね。それを考えると、私自身苦手意識が出てきてしまって、地域の方とどう関わりを持てばいいのか悩んでいます。」

鹿野「去年、夏祭りを再開させて頂いて、ご近所周りにちらしをお配りしたんですけど、その時は快く受けて下さって、実際たくさん来てくださったんで。そのご家庭にもよるんですけど。普段交流というのが難しいですね。イベントとかならいいんですけど。日常をやっていくのか苦手というのがありますし、どうやっていったらいいのか」

柴田「以前、貝塚会館でまこと講習会で行ってました。介護に関する勉強会を地域に広くオープンにして、私たちが講師になって介護の勉強会を行って、時には地域住民の方が参加して頂けたんですけど、今は貝塚会館が使用されていなく

て、児童館が創設されて、その中で集会所となってしまうと、そこでまこと講習会を行っていたんですけど、今度地区をやよい側の宮本会館に移動したんです、やよい地区の参加率は上がったんですけど、貝塚地区の人が向こうまで行って介護の勉強に参加するというのが難しく、繋げられず。」

鈴木様「児童館を利用することはできないのですか？」

柴田「高齢者がですか？交流という形で？これは交渉してみないとわからない話ですね。でも、ひとつ手だといいいですね」

鈴木様「お年寄りとお子さんと繋がりがあった方が」

柴田「清明小学校の1年生の子たちがクッキーを焼いて、クリスマスの時に送ってくれるんですね。お子さん達が来て。地区社共さんが主体となってやってくれています。なかなか日常的に難しい。令和6年4月に介護保険法が大幅改正されたことによって、地域住民の方と一緒に認知症について考えて共生していかないところは4月から施行されるので、私たちの考え方も少しずつ変えていかないと考えています。」

佐々木様「確かに町内会でも、やはりコロナになってからやはりしなくなりましたね。イベント関係とか町内会の中での新年会だとかレクリエーションとかもなくなって。かといって5類になってから復活しますも正直どこの町内会もなっていない。役員が高齢化してて、そのイベントそのものがなくなる感じになっているのと、今聞いていて、町内会にお便りを持って行っても、一企業の利益としてしか見ていないという事態が町内会の実際の会員の方々が高齢者の施設自体がわからないと、自分の家でなんかあったときもわけがわからないと思います。やはり町内会の会長さんの考え方だと思うんです。」

柴田「考え方もあると思います。開設当初の時は地域の根ざした地域密着型なので、町内会の方にも私たちも入っていたときもあったんですけど。会長さんの考え方が私たちの運営の内容を理解してもらえなく。」

五ノ井様「お便りそのものがまことの利益を得る為の一手段として皆さんで知ってもらうっていう考えでしょうね」

柴田「その後にもまた他事業所が出来始めたので。かといって別事業所のチラシなどが回覧板に入ってくるかと言われれば入っては来ないですね。でも、回覧板自体もないんですけどね。一応、貝塚地区の班長としてやってはいるんですけど。コロナ禍過ぎても町内会の活動がないので。班長と掲げているだけで、実際町内会と一緒に活動は動いてはいないので。」

五ノ井様「介護施設が出来たってことはそこの連携することはどうですか？同じ問題を抱えているのではないのかなって。タックを組んで町内会に広めてもらうとか。」

柴田「でも、以前言われたことがあります。ここの以前の2人くらい前の管理者男性だった時がありまして、男性管理者は人付き合いが上手いんです。町内会からも〇〇ちゃんと可愛がられていたんです。その立ち振る舞いが苦手で、なかなか

か馴染めなかったというのが敗因の一つかなと思っています。実際、利用者として高齢者と関わる事が多いんですけど、一般的に暮らしている高齢者と関わる事が少ないので。別の人種に見えてしまって、入っていけないんです。」

鹿野「隣同士でも交流もないので、集まって環境もないので。」

五ノ井様「それもまた難しいですね。」

柴田「前向きに手立てを考えていきたいと思います。」

鹿野「グループホームまことからも1月に外部評価をさせて頂きました。抜粋して評価内容を発表させて頂きます。こちらも事業所と地域の交流が問題になっておりまして。実施状況はコロナ5類移行後、面会時間や場所の制限は再開している。事業所の夏祭りを再開し。地域との関係を築いているというのが実施状況です。次のステップに期待したい内容として事業所は地域との付き合いが良好であり、コロナ禍以前のように地域を巻き込む夏祭りイベントや催し物を実施して地域の核となる事を希望しますというコメントを頂きました。目標として盆踊りなどのイベントですね。家の近所ではやっていたんです。こっちでは櫓作りを行っていたんですけど、うちの職員の方も足りなくて参加できなくなってきて、それも積極的に行けたらと。町内会の付き合いからイベントを通してとか、見学をオープンにするとかそういう事を考えて開いていこうかなと。ここが地域の核というか中心がないと住民方もいづらいのかなと思っています。他に、運営推進会議を活かした取り組みとして、参加者が少ないということをお願い。案内は出しているんですけど、日付や時間を変えているんですけど、この時間に落ちてしまったんですけど。今日は8名というでお越しいただいたんですけど、いつも4名なので。前日に電話をする施設とか、民生委員の方とか、学校の先生とか話をいらしたら喜んで来てくれるよと話を頂きました。家族会を作ったらと話を聞いて、どうでしょうか？家族会を作ると施設の内容がわかりますし、問題が起きた場合、施設自体の味方になってもらえる。」

柴田「それはどんな役割になるの？ご家族だけでしてもらってこと？」

鹿野「そうですね。という話を聞いてどうですか？」

柴田「今回評価委員として入って頂いたのが札幌の方なんですね。札幌の主体の考え方をご意見と述べてくれているのかな。でもやっぱり家族会を設けているグループホームもあるんです、さんぼみちさんとか。他のグループホームに聞いてみたら？」

鹿野「聞いてみます。どうですか？」

矢内様「うーん、なかなか集まらないと思うんですけど。」

本間様「2人しか集まらないみたいなことが起きそうですね。参加者はそこまで見込めないかな」

鹿野「聞いてみますね。」

矢内様「それだったら家族が集まっている夏祭りの後に30分でもいいと思います。」

柴田「それが残念なお知らせなんですけど、法人の経営母体が変わりまして、夏祭りと忘年会は一切なくなるんです。今回の経営母体が意味を見出してないというか。なかなか私たちの意見が通らないので。まだ発表してはいないんですけど。さんぼみちさんは家族会の方で敬老の日に入居者全員へお祝い金？というのを用意したというのを聞いたんですけど。どういう活動しているのか分からないんです。何で必要って言われたの？」

鹿野「何かあったときの味方になってくれる。」

柴田「事故？保障？」

鹿野「そういうのもあります。あと意見交流とか。」

柴田「今はネット社会なのでじゃあスマホ持って zoom でというのも、時代が時代だからここまで辿りつくのも大変ですよ。家に居ながら参加できるとしても。

何か他にありますか？この意見は運営にそのまま活かせていけるので。」

矢内様「出られない分、室内の行事でやってほしいかなと思っています。」

五ノ井様「コロナ禍の時は施設の中は大変だったと思うんです。一つ一つ気遣いをして。消毒一つとっても大変だったと思うんです。一人感染者が出るとやはり蔓延するというか。職員の方たちもどこも行けなかったと思うんです、旅行にも、食事にも。もし自分が感染源でと思うと、会社の方でも規制がかかったと思うんです。」

柴田「そうですね。ワクチンの接種回数も先を取れという感じで。また、一人がなってしまうと広がってしまうので。そうすると介護従事者の人数が足りなくなる。利用者のご協力が頂ければ、コロナに感染したとしてもご自宅で見て下さる方もいらっしゃれば、感染しているんだから帰してこないと言われるご家族様もいらっしゃいます。かといって医療機関はそういう方を受け入れなさいよと謳っていますけど、実際医療機関は入院はさせてくれない。結局、施設に戻ってきて。」

五ノ井様「逆に施設にいる方は施設で看なさいよと帰されますもんね。最初の頃は、感染源探しじゃないけど、あれは誰がかかっても仕方ないよね感じでしたけど。」

柴田「風評被害もありましたよね。あそこの施設がコロナの感染者が出たみたいだよとか。一気に広がっていきますもんね。」

佐々木様「そういうことを考えるととてもご苦労されたかなって思って。それだけは感謝です。」

柴田「ありがとうございます。」

鹿野「家でも隔離されていました。」

五ノ井様「そうですね。」

柴田「やっと落ち着きましたね。介護施設でコロナに感染してお亡くなりになる事例もあったので。それこそ症状がだいぶ軽くなったとはいえ、他事業所さん話を聞くと、やっぱりちらほらお亡くなりになっている事業所さんもいる中で、具

塚地区はそこまで至ったケースはないので。クラスターにはなりましたが、
少なく収まったかなと。」

五ノ井様「あと、いち早く開放して下さったので。開放するのも決断があったのではない
かと思うんです。」

鹿野「意見交換はかなりしました。」

柴田「全事業所の管理者が集まってまことの方針はどうするか話し合いました。」

五ノ井様「早く開くってことは感染源もいち早く入れてしまう環境下になってしまう
ので」

柴田「リスクと引き換えでしたね。外出できない、外泊できないとか、面会時も 1m離
して 10 分しか会えなく、部屋にも風が入ってきて。」

五ノ井様「逐一連絡でご様子どうですか？と聞かれるんですけどやはり実際に目にで見て
ご本人の様子を見て話しができるってことは嬉しかったです。」

柴田「ありがとうございます。」

五ノ井様「今でもご本人と面会できない所もありますもんね。」

柴田「ありますね。まことをご利用して頂けているご家族様は開放して当たり前という認
識でいるので、別の施設に行くと、病院受診以外は禁止という所がありますね。

これも矛盾はしているんですけど、受診はご家族で対応なので。」

五ノ井様「面会をするならビニール越しだったらいいんだけども、本人と 1 対 1 で会うの
であれば、未だに PCR 検査がしてからという所もありますね。」

柴田「負担になるんですよ。けど、経営母体が変わったのでこれからどうなるかわか
りませんね。聞いたときは寂しかったですもん。何か代わりになるものがあれ
ば。」

鹿野「以前のだったらクリスマスに家族も施設へ来てやっていたんですけどね。」

柴田「何かご意見ありましたらこの場じゃなくても頂けたらなと。」

5 その他

- ・今後の活動について

(小規模多機能)

3月

- ・開設記念
- ・桃の節句 と 工作
- ・春彼岸 牡丹餅づくり
- ・昼食作り (定例 調理レクリエーション×2)
- ・避難訓練

4月

- ・桜のガーランド工作
- ・苺とあんこのお菓子作り
- ・昼食作り (定例 調理レクリエーション×3)

3月

- ・桃の節句
- ・開設記念お祝い
- ・避難訓練
- ・誕生日お祝い

4月

- ・運動会
- ・調理レク ハンバーグ作り
- ・誕生日お祝い

次回開催予定日 令和6年5月15日(水) 14時 小規模まこと 2階リビングにて開催